

復活日説教和訳 (Rev. Alecia Greenfield, 2022-4-17)

(イザヤ書55:6-8, ルカ23:55-24:9)

今朝、日本語で拝読された日課のイザヤ書には、これらの詩の行が含まれる。拝読する。:

『主を尋ね求めよ、見出だしうるときに。

叫び求めよ、近くにいますうちに。

神に逆らう者はその道を離れ、

悪を行う者はそのたくらみを捨てよ。

主に立ち帰るならば、主は隣れんでくださる。

わたしたちにの神に立ち帰るならば豊かに赦してくださる。

わたしたちの思いは、あなたの思いと異なり、

わたしの道はあなたの道とは異なると主は言われる』。(イザヤ書55:6-8)

イザヤ書のこれらの節は、キリスト教を要約している。

最初に、主を尋ね求めよ。

第二に、悔い改めよ、主に立ち帰りなさい。

第三に、神の神秘性に余地を残しなさい。

拝読する。

『主を尋ね求めよ、見出だしうるときに。叫び求めよ、近くにいますうちに』。

これらの最初の行は、主を尋ね求める勧めである。そしてある時は、神が近くにおられることに気付くことを求めている。

主を尋ね求める。マリアと女弟子たちは、イエスを探しに行く。

主を尋ね求める。そして驚かさせられることに備える。

神を見出だす所を知っていると思うだけで、すべてが変わる。すべてが変わる。

そしてこれも聞こえる。神が近くにおられると感じるなら、この時に神を叫び求めよ。

よりよく、より神聖で、より値あたいすると思うまで、待つのではない。

David Edgerton司祭(Maple Ridge)の全説教は、自分を留め置く(parking) 祈りであった。

司祭の要点は、より大切なことはありのままの自分を神の前に差し出すことであった。

自分には何か価値がある思うまで、あるいは大切あると言われるまで待つのではない。

いつ何どきでも自分の心に神に受けいれる。

私たちはしばし神をほめたたえ、感謝することを話題にする。

しかしある時は、マリアと女弟子たちのように、私たちは恐れおののく。

ある時は、怒りや挫折、悲しみや愚かさ、あるいは自分を留め置く所を求めるのだ。

神が近くにいますなら、すべての自分を差し出し神を叫び求めよ。主を尋ね求めよ。

今日を拝読する。

『神に逆らう者はその道を離れ、悪を行う者はそのたくらみを捨てよ。主に立ち帰るならば、主は隣れんでくださる。わたしたちの神に立ち帰るならば豊かに赦してくださる』。今日のイザヤ書第2節は、悔い改めの勧めである。神に立ち返る実行と私たちすべての罪の赦しを請うことは信仰の大黒柱である。私が悔い改める時は、いつも爽な経験をする。悔い改めは、(肩から)重荷を下ろすように感じる。

悔い改めは、無限の憐れみによって慰められているように感じる。

私たちの信仰生活は、神を探し求める行動で満ちるべきである。

そして私たちの道を見失ったと知ったときは、常に(主に)立ち返るべきである。

つまり、予期せず、初めて、どこかで神の臨在を突然に感じるなら立ち返るのだ。

『わたしたちの思いは、あなたの思いと異なり、

わたしの道はあなたの道とは異なると主は言われる』

復活の最後の言葉は神秘さである。この過去一週間は人間の苦しみと死の物語が語られた。どうしてイエスは苦しまれ、死ななければならぬのか？

どんな計算によって、私たちの救済のためにイエスの死があるのか？

何千年もの間、たいへん優れた神学者による多くの意見が提供されている。

そして真実は、今が一番優れているのがイザヤ書による要約である。

神の道は私たちの道とは異なる。この道の神の方程式は分からないが、救済は真実である。愛の論理において神秘さを一番理解するには、私たちの救済は真実であることだ。

粗野な環境のなかで女たちの不思議な選択(考えたこと)、このような神秘さ。

イエスが予期した所におられなかったことを最初に発見し、復活されるイエスご自身の言葉を思い出したことである。(福音書ルカ24:5-6)

ある神秘さは、神が探し求められることをお望みであることだ。神の臨在を感じる時は、神が実際に私たちを呼び出されている。ある神秘さは、神の憐れみが無限であることだ。私たちは豊かな赦しを受ける。ある神秘さは、私たちが救済されていることである。

神を常に探し求めなさい。

神を見失う度に神に立ち返ると、神秘さの中で生きているのに気付く。

『わたしたちの思いは、あなたの思いと異なり、わたしの道はあなたの道とは異なる』と主は言われる。この復活の期間に、これらの言葉は荒々しく、素晴らしい約束である。

(文責長澤猛)